



で行ける！

ちよつといい旅

時の流れは速いもので、ついこの間までは照りつける太陽の日差しを受けて走っていたコミュニティバスも、郷愁を誘う秋風とともに走る季節になりました。これから年末に向けて、生活がだんだんと慌ただしくなってきました。そんなとき「ちよつとひと休み」をとることは人生を豊かにする大切なことかもしれません。コミュニティバスは、私たちの生活を支える足として通勤や買い物、通学などに利用されています。ふと車外に目をやると、少しずつ変化する三豊の自然や人々の生活など、新たな発見があるはずですよ。すこし足を止めて自分だけの「ちよつといい旅」を楽しんではいかがでしょう。今回は、仁尾町内を散策する「ちよつといい旅」をご紹介します。



仁尾町には、詫間方面、三野・高瀬方面、財田・山本・豊中方面からそれぞれバスを乗り継いで行くことができます。

仁尾町は、古くから北前船きたまえがねなど海路の拠点や塩田などによって栄えたところで、しょうゆ、酢、酒などの醸造業や綿花、お茶、生糸などを取り引きする大店おだなが軒を並べる町並みが残されています。



辻の札場

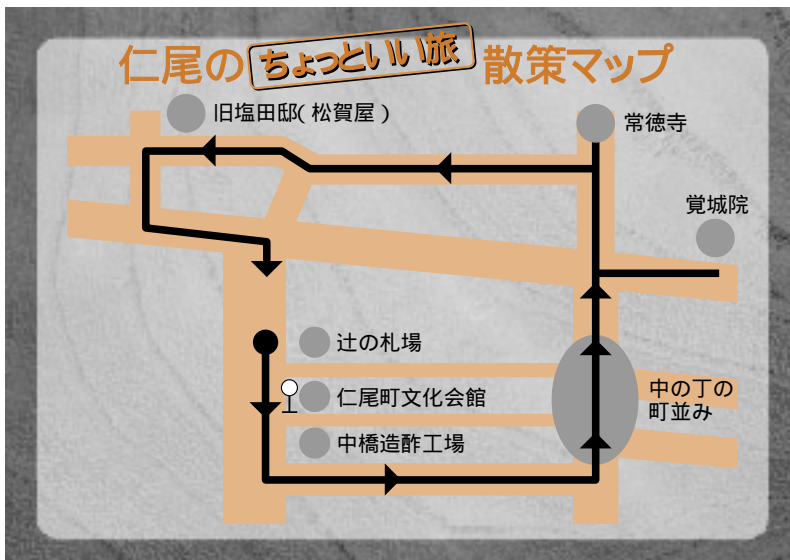
「仁尾町文化会館」バス停を下車すると、丸亀藩時代に周知事項を知らせた「辻の札場」、今という掲示板が目に入ります。

そこから道路を横切ると、仁尾酢で有名な



中橋造酢工場

「中橋造酢工場」があります。香川県における酢の醸造業は、寛保元年（1741年）に、ここ仁尾町で田野屋、中橋仁右衛門が米を原料に酢の醸造を始めたのが最初だと言われています。250年を越える歴史が生む、まるやかでふくらみのある味には、多くのファンがいます。





「中の丁」の町並み



街中に入っていくと、江戸時代の古い町並みを残した「中の丁（通称「なかんちよ」）」と呼ばれるメインストリートに出ます。当時は、軒をつらねた大小の店に多くの商品が並べられ、「仁尾買物」と称して近郷近在から買物をする人が絶えなかつたといわれています。

中の丁を抜けると、右手の小高いところに「覚城院」があります。覚城院は819年に弘法大師により創建された古刹で、桃山時代初期の建築様式とされる鐘楼は国の重要文化財に指定されています。また、長曾我部元親に攻められて落城した細川頼弘公の居城であった仁尾城跡としても知られています。

覚城院に上がる石段の手前を左に折れてしばらく



覚城院の鐘楼

行くと室町時代初期に建てられた常徳寺があります。常徳寺は、讃岐では数少ない禅宗様式の建物として国の重要文化財に指定されており、禅宗寺院独特の雰囲気を感じてくれます。



常徳寺

常徳寺を出て細道を行くと、立派な塀に囲まれた屋敷に出ます。仁尾の塩田を発展させた塩田忠左衛門の屋敷で、板金職人の匠の技が光る

「えべっさん」がほぼえむ樋やしつくりのなめこ壁、宮大工が建てたといわれる母屋など歴史を感じさせるものを随所に見ることができます。

「えべっさん」がほぼえむ樋やしつくりのなめこ壁、宮大工が建てたといわれる母屋など歴史を感じさせるものを随所に見ることができます。



旧塩田邸(松質屋)

仁尾町は、小さな街に数百年の歴史が凝縮され、そこに人々の生活が根づいています。散策マップを片手に、ゆったりと流れる時間を楽しんでみてはいかがでしょうか。

仁尾へのアクセス

財田・山本・豊中から仁尾へ	
行き	帰り
11:53着	仁尾町文化会館
11:26発	15:16発
10:50着	15:43着
10:33発	16:15発
10:16着	16:32着
10:12発	16:59着
10:00着	17:04着
9:40発	17:25着
9:53発	17:37着

高瀬・三野・詫間から仁尾へ	
行き	帰り
12:34着	仁尾町文化会館
12:10発	16:16発
11:59着	16:40着
11:51発	16:51着
11:40発	16:59着
	17:10着

- 財田観音寺線
- 山本線
- 仁尾線

→ 高瀬仁尾線

高瀬仁尾線と高瀬線・三野線等は各支所で乗り継ぎができますが、時刻表の関係上、待ち時間に差がありますのでご了承ください。